

本日も日本国、
ヘドが出る程平和です。

土屋豊監督作品

1000/デジタルビデオ/99分/カラー

新しい神様

ベルリン国際映画祭
山形国際ドキュメンタリー映画祭
香港国際映画祭
シンガポール国際映画祭
台北金馬映画祭
ヴェネチア国際映画祭「オーストリア」
"It's All True" 国際ドキュメンタリー映画祭「フランス」
全州国際映画祭「韓国」
ホップコン映画祭「スウェーデン」
撮影/土屋豊 雨宮処凛 伊藤秀人
製作/WITV OFFICE
配給/VIDEO ACT!
配給協力/アップリンク



リアルな虚構に現実感の無い現実、まったくもって同調する。

カメラに向かって取る視線を見ても、なんだ、みんなさっしやんと思ってた。20歳、女、学生

反体制の気持ちは薄らもつていない。疑問をすっかりもつていたけど、可憐な行動を起させない自分いる。21歳、男、学生

拍手自然に。そして決心して自分かたなな。行動を示す。20歳、男、学生

大衆が共感していくの、正々堂々と。大衆とは、他者との会話をしつづけている。21歳、男、学生

この映画は、他者との会話をしつづけている。21歳、男、学生

この映画は、他者との会話をしつづけている。21歳、男、学生

この映画は、他者との会話をしつづけている。21歳、男、学生

この映画は、他者との会話をしつづけている。21歳、男、学生

この映画は、他者との会話をしつづけている。21歳、男、学生

この映画は、他者との会話をしつづけている。21歳、男、学生

この映画は、他者との会話をしつづけている。21歳、男、学生

この映画は、他者との会話をしつづけている。21歳、男、学生

この映画は、他者との会話をしつづけている。21歳、男、学生

この映画は、他者との会話をしつづけている。21歳、男、学生

この映画は、他者との会話をしつづけている。21歳、男、学生

この映画は、他者との会話をしつづけている。21歳、男、学生

この映画は、他者との会話をしつづけている。21歳、男、学生

この映画は、他者との会話をしつづけている。21歳、男、学生

何も考えずただ流されて生きてくれない。21歳、女、学生

個人的にいろいろと観てきたけど、この映画にはまだ観たことがない。21歳、女、無職

泣けてきた。映画ではなくて目の奥に。24歳、女、学生

硬軟左右世代を越えて大絶賛!

されるといふことは『新しい神様』が傑作なのか?
あるいはホントに日本がヤバクなっていることの証なのか?
自分の眼で確かめよ!

★若林盛亮(右中画)と木村三浩(左中画)

映画制作が終わって「ビデオカメラなしでどうやって生きて行くの?」と本人を絶叫させた「両宮人魂」に尽其量のこの映画の力!

ラストで「身内向けではなくそこにいた客に合わせたライブで自分の力で社会とつながれる」感触を得た両宮さんほんとによかったね。——ピョンヤンより愛をこめて



★木村三浩(一水会代表)

右翼をナメてんのかコノヤロー! と、言いたいところですが、この映画がウケているという事は、両宮さんと同様の空虚感を持った若者が増えているんですね。あと、一水会は「お酒飲んでクダ巻いてる人」ばかりではありません。念のため。

★中森明夫(コラムニスト)「週刊SPA」より
君が代が鳴り「天皇陛下万歳」と叫んで頂い始める。

右翼バンド「維新赤誠塾」の女性ボーカルにして、パリの民族派構成員、キヤバラ活動のミニスカ右翼キヤル「兩宮人魂」を主演するドキュメンタリー映画『新しい神様』が注目!

★マルセル・マルシュ(山形国際ドキュメンタリー映画祭国際批評家連盟審査委員長)

現代社会のイデオロギー的課題と価値観を革新的に描いたこの作品に特別賞を授与します。

★丸中千世子(映画評論家)

鏡のような映画である。右翼的な心情で見れば、この映画は右翼の心情をよく理解している。左翼思想の持ち主が見れば、兄弟のような思想を見いださう。上層監督は主義や思想に縛られず自身身であるところ。そこに私は個人主義と全体主義の対立の合一を見てあわたわけた。この映画の主旨は夫れを正確にとりこみである。

★篠山紀信(写真家)

スゴイよ、この映画。『ゆきゆききて神軍』、超えるよ!
★今(一)生(ライター&ライター)
日本にイデオロギーなんか無い。
どんな過激な動も「親に迷惑がかかるなら控える。うっかりヤンチャしても結局は、親に申しわけない」で終結。
兩宮人魂は気づくはずだ。あつ、アツ、一人で生きてられる!

★宮台尚司(社会学者)

現代のシヤーマン、兩宮人魂。ビジュアル系追っつけ、奇形的な人形製作などを経て、極右バンク、維新赤誠塾、ボーカリスト。この題解を示すように、自傷系少女、兩宮人魂はスゴイものに次々と感染した挙げ句、天皇主義へと至る。表現(イデオロギ)では、自らを演出(情念)に感服するの身体は、左右を問わず、日本のテロリストならぬ思想家の系譜を、一身に体現する。その兩宮人魂と、彼女のスコサに惚れた上層監督の関係は、ヒメ・ヒコ制を体現する。まさしく、日本的なものの根に屈し、批評をうけてゐる。

★ベルリン国際映画祭

山形国際ドキュメンタリー映画祭
山形国際ドキュメンタリー映画祭
シネマ・パルメ国際映画祭
台北国際映画祭
ヴェネチア国際映画祭
「2012」国際ドキュメンタリー映画祭
ホッポコ国際映画祭

★四方田犬彦(映画評論家/明治学院大学教授)

『新しい神様』の主人公を衝き動かしているのは、政治的な情熱でもなければ、歴史的義憤でもない。それはいうなれば演劇的な情熱であって、ひとたに舞台に挙げてられて照明を浴びることで、舞台とはピョンヤンのホテルに設けられた鏡であり、ビデオカメラであり、映画祭の会場でもある。もし兩宮人魂が本気で民族とか、国家のことを学びたいというのなら、まず姿勢を正し、李香蘭の自伝を読まばいい。

★鈴木邦男(二水会顧問)

これは壮大な実験映画だ。人間にとつて「思想」とは何か、「行動」とは何かを問いかける。映画を撮る方も、撮られる方も、社会に対し苛立ちをぶつけ、自分自身にも苛立ち、闘っている。その心の軌跡が伝わり、感動的だ。

★大槻ケンヂ(ミュージシャン)

これが意外に、ホノボノとした青春映画な部分もあつてよい。イデオロギイは遠くとも、熱く燃える若者の志は「一緒に、みたいな。友情とはいもだ!」つてゆー映画かもね。あと、登場する右翼バンドは滅茶苦茶に笑えますね。

★佐藤忠男(映画評論家)

いまインテリゲンチエントのドキュメンタリーが社会の深層から聞こえなくなつてしまつたことを拒否した若者たちが、「新しい神様」はその最前線を行く作品のひとつであり、対立するイデオロギイ間の対話として、殆ど不可能なことに挑んで、力をつくしてそこに逆を聞いている。

★蓮蓬 誠(反権力弁士)

プロイラーにわたつたように倒いならされた今の日本、特に若者たちは、何を信じて生きて行きたいかという、生きる支えがない。この映画は、そのプロイラーにわたつたことを拒否した若者たちが、自分の頭の中で、日本の現状と社会と国家の未来に、希望を見い出さうとして苦闘している作品である。日ノ丸と君が代と天皇制を否定している私は、その立場を異にしているが、必見の価値ある作品であることは間違いない。

★大久保賢一(映画評論家)

微細なものから大きなものまで、我々はなぜ物語を必要とするのか。『新しい神様』で国家という物語に向き合う。個人の生存を手探りする兩宮は、その行動のぶつ飛びかたも含めて、最も真摯で美しい、最高のヒロインだ。

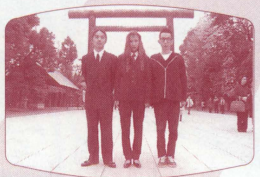
★園子進(映画監督)

文句なく面白い!面白しい、感動もした。つまり傑作という事だ。実のところ結構ではないか。あまのドキュメンタリーのくだらなさを徹底的に粉砕し、現実を踏みこみまくるバンクな主体性を示した。これを映像。もどママもドキュメンタリーもへつたれもない。映像のみの勝負で上層監督は圧倒した。その勝ちっぷりには元気が出る。嬉しい!



★根本 敬(特殊漫画家)

何も考えてない時は悩んでいるのに考え出すと解らなくなる。視線をさらしている時は見えているのに直視すると姿を隠す。真実または神つてはもういもうらしない。



★若林盛亮(右中画)と木村三浩(左中画)

クリスタ長堀南10番出口すぐ・ソニータワーB1
心斎橋 シネマ・ドウ (06)6251-3789
※詳細は、劇場へお問い合わせ下さい。

め独占“神様”レイトショー
ゾクゾクするほど面白い、衝撃の超ドキュメンタリー!
〈新しい神様HP〉
http://www.st.rim.or.jp/~yf-w-tv/kamisama.html